

平成 30 年 度  
日本農学賞受賞論文要旨

## 目 次

第 89 回日本農学大会案内	（表紙裏）
加盟学協会大会案内	（裏表紙）

## 受賞論文要旨

遺伝的不良形質の原因遺伝子解明による家畜生産性の向上	1
（公社）日本畜産学会	
畜産技術協会附属動物遺伝研究所 所長	工学博士 杉本 喜憲
岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授	農学博士 国枝 哲夫
洋ランのクローン苗生産に関する先駆的技術の開発と応用	7
日本生物環境工学会	
香川大学 名誉教授	農学博士 田中 道男
フードシステムと食品由来リスク認知に関する実証的・政策的研究	13
日本農業経済学会	
立命館大学経済学部 教授	農学博士 新山 陽子
農業情報研究分野の確立と先導	19
農業情報学会	
東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授	農学博士 二宮 正士
動物プランクトンの生物機能研究と水産増養殖への応用	25
（公社）日本水産学会	
長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 教授	農学博士 萩原 篤志
オリゴ糖生産酵素の基盤的研究	31
（一社）日本応用糖質科学会	
北海道大学 名誉教授	農学博士 松井 博和
緑茶の生理機能の解明とその応用に関する研究	37
（公社）日本農芸化学会	
農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門	
食品健康機能研究領域長	農学博士 山本(前田)万里

農学賞および日本農学賞受賞総覧	(43)
日本農学会加盟学協会一覧	(57)
日本農学会定款	(59)
日本農学会農学奨励規定	(64)
平成 30 年度日本農学会役員	(65)
加盟学協会賞受賞者一覧	(67)

# 第55回読売農学賞

## 受賞者8人の業績

農学分野の優れた研究をたたえる第55回「読売農学賞」の受賞者が決まった。日本農学会(西沢直子会長)の協力で8人(2人は共同受賞)を選んだ。授賞式は4月5日、東京都文京区の東京大学弥生講堂で行われる。受賞者の業績を紹介する。

あつし 萩原 篤志さん 61

長崎大学教授



「動物プランクトンの生物機能研究と水産増養殖への応用」

養殖漁業では、魚のエサに動物プランクトンのワムシが使われる。この体長が1ミリの間に満たない小さな生物の生態を調べ、受精卵の量産技術を確立するなど、養殖漁業の発展に貢献した。

誕生後7〜10日で死ぬワムシは、雌だけで増える「単性生殖」と、雌雄の交尾で増える「両性生殖」の双方を行う。65年前の受精卵が、長い休眠を経て孵化することもある。

不思議な生態を解明しようと、培養と観察を重ね、それぞれの生殖方法が活発になる条件を調べた。孵化に紫外光が関係していることも突き止め、受精卵の保

## プランクトン受精卵 量産

存技術の開発につなげた。微小な生物の虜になったのは、東京大で採取と観察に明け暮れた学部生時代。いつしか世界に通用する研究者になり、研究者仲間には15種類いるワムシの1種類に「ハギワライ」という学名を付け、たたえた。1988年に助手として着任した長崎大で30年間、研究を続けた。「いまの自分があるのは、水産関係者が多い長崎のお陰」と話す。研究を支えてくれた妻の出身地でもある。「魚離れ」など食生活の変化による漁業の低迷が気がかりで、NPO活動を通じて街の活性化を模索する。それが地元への恩返しだという。